

## 令和5年白老町議会産業厚生常任委員会会議録

令和5年7月20日（木曜日）

開 会 午前11時00分

閉 会 午後 0時09分

---

### ○会議に付した事件

所管事務調査

1. 物価高が町内産業に与える影響について
  2. 議会報告会について
  3. その他
- 

### ○出席委員（6名）

委員長 森 哲也 君

副委員長 久保一美君

委員 及川保君

委員 西田祐子君

委員 長谷川かおり君

委員 貳又聖規君

---

### ○欠席委員（なし）

---

### ○説明のため出席した者の職氏名

産業経済課長

工藤智寿君

---

### ○職務のため出席した事務局職員

主 幹 小山内 恵 君

書 記 大石雄大君

---

◎開会の宣告

○副委員長（森 哲也君） ただいまより産業厚生常任委員会を開会いたします。

（午前11時00分）

---

○委員長（森 哲也君） 本会議終了後のお疲れのところ、お集まりいただきありがとうございます。本日は工藤産業経済課長にお越しいただいております。

先般、分科会で商工会と懇談を行いまして、その際に、物価高騰が町内産業に与える影響について、本当に生の声を聞けた部分が多くございました。商工会との懇談を受けまして、改めて工藤産業経済課長に質問がございます委員の方がおられましたら挙手の上質問いただき、答弁をしていただけたらと思います。

質疑がある委員の方がおられましたらどうぞ。

及川委員。

○委員（及川 保君） 継続して調査してまいりまして、今日はまとめということなのですが、先般分科会を開催しまして、商工会の部会長さんなどにお話を伺う機会があったのです。そのときに、3年間の新型コロナウイルス感染症の関係で、非常に厳しい町の経済状況ということを経験した点からお聞きいたしました。3名の方だったのですが、コロナに関しては国の支援を含めた中で、町も非常によく対応していただいたと感謝の話もありました。そこは私も評価はするのですが、そのような中で、最近の物価高騰、今後ますます厳しい状況になるのだろうということを踏まえ、各部会の皆さんもその辺りは危惧しておられまして、例えば運送業で言えば、来年目の2024年問題という厳しい状況が心配されておるわけです。そのような中で町としてどのような支援ができるのか。国も本腰を入れて多分考えていくと思うのですが、ぜひ町もそのようなことも含めて取りこぼしのないような施策を進めてほしいというのが1点。

もう一つ、この物価高騰に関わらないで町の少子化問題、やはり若い方々が働きやすい環境にも力を入れていただきたいという話もあったので、その辺りの状況をお聞かせいただければと思います。

○委員長（森 哲也君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） ただいま、及川委員から大きく2点ご質問をいただきました。

運送業をはじめとします各事業者の皆様は、及川委員からお話があったとおり、コロナ禍で非常に厳しい状況にあったと我々も感じておりますし、前にも何度かお話しさせていただきましたが、コロナが始まってすぐに4か月に1度ではありますが、アンケート調査などをさせていただいて、様々な分析を行いながら、また、国のお金を活用しながら各事業者に対しての支援を含めた中で対応させていただきました。

運送業のお話もありましたが、今人が動き始めたところもありますが、まさに物価がそれ以上に上がっているということを生活者の一人としてもすごく感じております。これは事業者にとって死活問題に関わる場所だと捉えておりますので、政策形成のようなお話になるかもしれませんが、きちんと現場の声、事業者の声を捉えていくことが担当としては大事ななという

ところがありますので、先ほどありましたアンケート調査も物価高騰も含めて現在行っておりますし、アンケート調査のみならず、私も含めて担当者も様々な場面や事業者のお話なども直接聞いております。これで十分かというももっともっとやっていかなければいけないかと思いますが、現場の声をきちんと聞くということに取り組みながら、どこにどのような支援ができるかという部分を、財源の問題もありますので、国の情報であったり北海道の支援であったり、場合によっては国の独自支援策、北海道でやられているものがあります。中小企業庁もごさいます。そのようなメニューをお伝えする、申請のお手伝いをするなど様々な方法があると思っておりますので、町から直接支援ばかりではなく、そのような情報収集したものの中で判断し、事業者の方に合った支援方法をお伝えしていくということも、今まで以上に物価高騰が非常に厳しいところでございますので、取り組んでいかなければならないと考えてございます。

少子化の部分です。本当に少子化の与える影響というのは、事業者の担い手不足が非常に叫ばれているところでございます。苫小牧のハローワークの数字で言いますと、記憶が定かではないのですが、10数か月間ずっと右肩上がりでも有効求人倍率は高かったのですが、ここ最近になって1.0を下回り0.99というような、最新ではそのような数字が出ていたかと思えます。

ただ、これも中身を見ますと業種別でばらつきがございまして、例えば建設業や運送業に関してはとても高い求人倍率になっておりますし、逆に事務職が少ないと。職を求める人は事務職等を選ぶのでミスマッチが起きているという中での人手不足で、先日も産業経済課で所管しております立地企業連絡協議会で様々な事業者のお話を聞くと、本当に皆さん人を集めるのに苦労している。今後若い人がうちの会社に来てくれるのだろうか、働いてもらえるのだろうか、非常に心配されておりました。そのような生の声を聞くと、本当に厳しいということで、少子化を含めてこのようなことはできないかという大胆なお話をされた事業主の方もいらっしゃいました。いろいろなアイデアもありましたが、具現化できるかどうか十分検討していかなければならないのですが、少子化対策はやっていかなければ、今よりさらに10年後、20年後、もっと厳しい状況になると思っておりますので、町としてできること、町以外でも少子化というのは全国の話ですので、それをどうやって解消していくかということ国情報もキャッチしながら、我々も取り組んでいかなければ、次の世代、そのまた次の世代の担い手、働き手、まちづくりの観点でも少子化は大きな問題だということで、産業経済課がどうのこうのということではなくて、町全体で取り組んでいかなければならないと思っておりますのでございます。

本当に雑駁な答弁になりますが、ここについてはきちんとそれぞれの分野で連携しながら、横の連携という話も最近話題によく出ましたが、そのような取組をしていかなければ少子化対策はつながっていかないと思っております。

○委員長（森 哲也君） ほかに意見をお持ちの委員はいらっしゃいますか。

貳又委員。

○委員（貳又聖規君） 私たち常任委員会の一つの役割としては政策提言が必要になってきますので、前回、商工会の皆さんと意見交換した中で出された部分を紹介したいと思います。

各企業は社員の福利厚生に力を入れているようなのです。ある運送会社では、今までにない手当を新設して社員の意欲を高めるようなこともしている。実際に町内と町外から通っている

部分でいくと、やはり町外から通っている方々が多いという中、町に対して何でもかんでもお金をくれということではなくて、地域に根付く取組として、一つ出されたのが住宅の斡旋、手配でした。本町は空き家も多いですから、例えば住まいを確保して町内の企業にお勤めになる社員の方が、町外から通わずに町内で住宅を確保するような政策、これを一つ、行政がすべきことなのかと私は捉えました。何でもお金で補助するというのではなくて、環境づくり。それが人口減少の克服にも役立つので、そのような手立ても一つかと思えます。

畜産関連では、今、牛屋をやっている方々は、それだけではなかなか食べてはいけないので、ほかの仕事もしながらやっているということで、これは担い手もちろん不足するけれど、牛屋さんのお仕事だけでは厳しいという状況下にあって、SNSを使ったマッチングが出されていました。若手の方々はSNSを使いますから、本州の都会におられる女性などは農業に一つの憧れがあるだろうというところで、以前やっていた婚活ではないのですが、そのようなマッチングをするということも今後必要になるのかという話題が出ておりました。

私は、産業経済課として商工会と連携を密に地域課題を克服するような政策提言を受けて、政策化しているのは分かるのですが、今回意見交換した中でアンケート等では救いきれない実態が聞けて、そこから政策提言していくべきだろうと思ったものですから、前回意見交換させていただいた中での情報を共有させていただきます。それについて一言あればお願いします。

○委員長（森 哲也君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） ありがとうございます。貳又委員がおっしゃってくださった商工会の話は私も聞いていなかったもので、そのようなお話があったのだとお聞きしました。

大きく分けると二つばかりお話があったかなということで、移住定住と言いますか、担い手も含めて福利厚生の手当ということでやっている企業もあるという話がございました。我々も町外から通勤されている方もいらっしゃるということも十分理解しているところではございますが、住宅の斡旋は、企画財政課のほうで住宅手当を補助するような仕組みを実はさせていただいておまして、各企業が勤められているところに対して、白老町に住んでいただいて、例えばアパートなどに住んでいただいた場合、各企業の住居手当から差し引いて残った額の2分の1相当額の手当でもさせていただいております。私の記憶では最高で月額1万5千円。そのような手当でも支給させていただいておりますので、これが制度としてあっても知られていなければ何もならないというところもありますので、まだまだ町としてどの部分がということではなくて、どの分野においても我々の認識しているところでは、まちの情報を発信、受け取ってもらえる方への情報発信が非常に弱いのかなと思っています。どの分野においてもそうなのですが、私が言うてはほかの部署の方に怒られるかもしれませんが、そのようなところがあるので、分かっている人には「いいことをやっているよね。」と言っていただけなのですが、知らない人がいると何にもならないという状況になっておりますので、このような制度もありながら、そのような事業主の方が雇用を確保するとか、及川委員からもお話のあった移住定住の関係や少子化の部分にも関わってきますので、住まいの確保という観点では建設課とか様々な部署が関連しますが、ここは横の連携で過去には建設課において町内のアパート情報などもホームページに掲載していたこともございました。それがいいかどうかという問題はありますが、そ

のような情報の発信も今の町は弱いと認識しているところがありまして、そこは私が所管しています例えば観光分野、経済分野をもっともっと発信して皆さんに分かっていただけるように届けなければいけないと思っていますので、まずはそこを努めていきたいという部分と、さらにどのように住まいを確保するかという部分をもう少し研究していきたいと思っています。

畜産関係です。コロナ禍で、コロナ前は牛の値段もかなりいいところまで上がって、「今、牛屋さんをやった方がいいよ。」というくらいのところまで、実はコロナの前半くらいまではいってました。最近ちょっと牛の値段も下がってきまして、特に皆さんご承知のように飼料もそうですし、農業ですと資材関係も高騰しています。厳しい経営環境にある中で、「ほかの仕事もしているのだ。」ということも今貳又委員から言われている中で、例えばSNSを使った農業体験といった具体的なお話もありましたので、そのようなことが受け入れ側もできて、逆にそのような方の「来たい。」という声もあれば、いいお話かと思えますので、今後少し検討させてもらえればと思います。観光という分野からも私が言うより貳又委員のほうが詳しいと思いますが、よく修学旅行で農業体験ありますし、そのような中で何かできるものがあれば、充分今後も様々な面から検討させてもらいたいと思います。

○委員長（森 哲也君） ほかに意見お持ちの委員いらっしゃいますか。

西田委員。

○委員（西田祐子君） 実は今まで物価高騰による影響などと近況の展望についてという話の中で、日本製紙さんの名前が全然上がってこなかったのです。白老町の製造業は年間650億円、大きな製造があるのですが、前回の懇談の中で、日本製紙さんの売り上げが下がっていたと、そうすると関連会社さんも皆さんそれに関係して結局経営が厳しくなってくるという状況があったものですから、どのような状況になっているのかを聞いてみたいということが一つです。

もう1点、製造業の方々を見ると製品のサービス、受注、売り上げ減少というのがいただいた資料の中であったのですが、どうしても私たち身近で製造業をやっている会社のことは、どれだけ従業員がいて、どれだけ売上げがあるのかなかなか見えづらい部分があったものですから、やはり製造業は実際に650億円の売上があるのだから、そののところをきちんと町としても守っていかなければ厳しいのかなと思っているのですが、その辺はどうなのか伺います。

○委員長（森 哲也君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 本町の大きな企業であります日本製紙さんの関係でございます。お話いただいたとおり年間約650億円前後の工業出荷額ということで、胆振管内でいうと苫小牧市、室蘭市、その次に白老町ということで、工業出荷額は管内では第3番目という非常に大きな金額を出荷しているところでございます。

日本製紙さんにおかれましても、様々な場面でお話をさせていただいておりますし、例えば、町長と上京した際にも挨拶に行つて日本製紙の幹部の方ともお話をさせていただいたこともありますが、こちらの地元でいうと従業員が同じなのです。ほかの企業と同じように担い手の確保を今一生懸命にやられています。というのは、日本製紙といえども働き手が集まらない状況の中で、本町で行っております合同企業説明会にも自らブースを出されて、会社のPRをして従業員の確保に努めているという状況があると伺っておりますし、実際にブースに来ていた

だいてご挨拶などもさせていただいております。

事業の部分については、製紙業界が大変厳しい状況にあるということは新聞報道にあるとおりなのですが、私も報道で知る限りの部分もありますが、様々な分野に日本製紙も考えられておりまして、例えばバイオの関係とか、新しい製品と言いますか紙製品から出る部分ではなくて、今急に出たのですが、化粧品の材料に使える特に女性の保湿にいい製品があるそうなのです。そのようなものを町内企業であるナチュラルサイエンスさんに提供されているというお話は聞いてございます。多角的にやられているという情報は持ち合わせていますが、本町でよく相談を受けるのが人材を確保したいという話で、先ほども言いました合同企業説明会でご相談を受けているというか、人材を確保したいということでお話を伺っているところでございます。

これが全ての答えになるのかどうかちょっと分かりませんが、お話をして受けているのはそのようなところでございます。

○委員長（森 哲也君） ほかに質疑をお持ちの委員はいらっしゃいますか。

長谷川委員。

○委員（長谷川かおり君） 先日、お話を伺った中で、本当に物価高騰はしているけれども、観光として来たときに、例えばお弁当ですが、中身をいろいろとやり取りして今まで1,000円だったものを1,500円にグレードアップしてすごく好評だったという、実生活としては半額のお弁当を買うような生活をしていても旅行などで出かけたときには少し上乘せしたものを購入している現実もあるというお話も伺ったので、そのような中でインバウンドも今朝何かの新聞で見たら、今年1月から6月の上半期の外国人旅行者がコロナ前に比べて6割復活しているというようなデータも目にしてきましたので、やはりインバウンド効果もだんだん上がってきているという、そのようなところでウポポイ関連の効果で、アイヌ関係の政策など白老牛などもブランドになっていますし、しっかりしたものをもってもっとPRして、打ち出して人を呼び込むようなこともやっていますが、さらに呼び込んで相乗効果、物はお弁当容器など何もかも上乘せというところで、事業者の方々はある程度利益が出ないと生活していけないということで、ブランド力の向上などそのようなグレードアップなどをしていく中で、町内で産業が潤っていけばいいことだと思うので、現場の話を聞きながら何か町で仕掛けることできたらいいかなと思うので、そのようなことも考えていただきたいなと思ってこの間のお話を聞いておりました。

○委員長（森 哲也君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 長谷川委員からお話いただいたのは、大事な視点の一つかと思っております。観光で言いますと、昨年皆様に何度もお話させていただいておりますが、220万人を超えた、14年ぶりの結果だったということで、昨年コロナの影響は少しありましたが、そのような中では多くのお客様に来ていただいたと思っております。これをコロナが明けたという表現がいいのかどうかは別としまして、5類に移行した後に人の動きも出ている中で、本当に多くのお客様に来ていただいていると思っておりますが、やはり来ていただいた以上にお金を落としていただきたいというのが本音としてあります。ただ、呼び込むにも今我々の動きも活発化になってきたところもございまして、白老町と登別市で観光連絡協議会という団体を持っておりまして、先月総会も終わりましたが、やはり誘客に力を入れていこうということで、

今様々な事業が出されたところでございます。

また、西胆振、ニセコ方面も含めた観光圏の中でも様々な事業が取り組まれておりますし、北海道の話でいうと、今年アドベンチャーワールドサミットというATWSというのが、日本、北海道を中心に行われるところで、ウポポイも実はコースに入っております。このようなことから、外国のお客様もたくさん来ていただけるということですし、アドベンチャーワールドサミットで来るお客様は、富裕層の方が多いということで非常にお金も落とさせていただけるという期待感も持っているところでございます。ただ来るのを待っているだけではなくて、それ以外の部分においても誘客活動をもっと行っていこうということで、今うちの課の中で十分話をしていますが、コロナ禍でできなかった事業は結構ございまして、その一つが修学旅行の誘客。当然コロナ禍ですので学校側では「来ないでください。」という当たり前の話で、そのような状況があった中で、今このような状況になりましたが、過去には札幌市内の小学校を全部回ったり、千歳市の小中学校を全部回ったり、道外においては横浜市、名古屋方面でも修学旅行の誘客などを行っております。苫小牧港と大洗港のフェリーの関係もあってその周辺、茨城県水戸市周辺も商船三井フェリーとも組みながら誘客活動なども行っておりましたが、軒並みコロナでできなかった事業がたくさんございます。そのようなことをもとに戻すという言葉は表現が適切ではありませんが、そこから始めてグレードアップして活動の幅を広げていきたいと考えております。これは役場ばかりではなくて観光協会、もしくはガイドセンター、いろいろな団体の皆さんと一緒にやることによって相乗効果を高めていきたいと考えております。

そのようなことから、観光入込客数が何万人ということよりも多くのお客様に来ていただきたいという思いで、これからもっともっと努めていきたいと考えているところでございます。

○委員長（森 哲也君） ほかに質疑をお持ちの委員はいらっしゃいますか。

久保副委員長。

○副委員長（久保一美君） 先に質問されたこととかぶるところがあるのですが、この前の懇談会で運送業の方がおっしゃっていた、町外から通勤してこられる方、本当は白老町内に適切な住まいがあればそこから通いたいのだろうなど。そこで浮かんでくるのは、なかなか進まない空き家問題など、何かいろいろ課がまたぐけれど全てのことが関連しているのだなと感じたところなのです。そのような方々の意見の中で、ちょっと外れてしまうお話だったのですが、小さな子供がいる方が「白老町には子供を1日遊ばせる場所がない。」と。どうしているかという、苫小牧市の北星公園に連れて行っている。設備をするにはお金がかかるかもしれないけれど、そのようなところが1か所あって、たくさんの方が集まれば飲食店も潤うなどというのが感じ取れたので、長い間いろいろな方から言われていた部分だったのですが、このような部分はどうかお聞きします。

○委員長（森 哲也君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 非常に難しいといえますか、おっしゃっていることはすごく分かります。まちづくり全体の話になるので、私が答えていいのかどうかと思って聞いていました。言われるとおり、私も前の部署、企画課にいたときに子育て世代の方によくお話を聞かせてもらいました。具体的に言うとすすく3・9さんに行っているいろいろなお話を聞いて、実

は白老町は以外といろいろな子育て政策をやっているという認識を持っておられる子育て世代の方もいらっしゃいました。久保委員がおっしゃったように公園に関しては、「北星公園は遊ばせるのにいいよね。」というお話は何回か聞いたことはございます。公園が先ということより、白老を選んでいただくには、それぞれの世代の方のそれぞれの視点、それぞれが「ここがいいから住んでみよう。」と思えるような町にならなければならないと思っていますので、これ一つがいいから白老町を選ぶかという、生活の糧となる職場であったり、子供を育てる場面であったり、老後ゆっくり楽しく趣味を生かしながら過ごせる場所であったり、様々な人たちが白老を選ぶ様々なポイントがあるのだらうと思いますので、全てを充実させるのはなかなか難しい部分があるかもしれませんが、役場全体で連携を取り情報を持ち寄りながら選んでいただける町になるよう、まちづくりを進めていかなければならないと思っています。経済分野と離れたような話で、私が言うのも少しおかしな話ですが、きちんと連携を取りながら進めていかなければ、先ほども言ったように10年後、20年後、30年後、それ以降厳しい状況になっていくということもありますので、経済活動を行っていくにもやはりきちんと人がいて経済活動が成り立つということも考えると、経済分野から見ても多くの方に選ばれるような町になっていかなければならないと思いますので、役場職員一同頑張っていかなければならないと思っています。

○委員長（森 哲也君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 工藤産業経済課長、今それぞれの委員の皆さんからいろいろ出たのですが、私の申し上げたことも課をまたがった話なのです。今久保委員、貳又委員からもありました。やはり課をまたがった政策というのは課長も自分の管轄ではないけれど。と前置きされていましたが、課長会議などがあるのですから、理事者の皆さんも含めて、このような情報を共有していただけるような状況をぜひつくっていただきたいと。一生懸命頑張っている職員の皆さんの状況はしっかり分かっていますので、ここをさらに踏み込んで課をまたがって情報を共有して何をすべきか、一つ申し上げれば年寄りの町、高齢化社会には一生懸命頑張ってきた。ところが、前回議会でも私が申し上げた若者対策、ここは隣の苫小牧市と比較しても公園整備、公園はいっぱいあるのだけれど特色のある公園が見当たらないのです。

久保委員からありましたように、若者の意見としてあるのです。公園がきちんとすれば子供は住み、毎日の生活の中でそのような、子供を育てていく過程でまちにあれば非常にいいなというものをまちの皆さんは持っているのです。ぜひ若者対策にも取り組んでいただきたいものだ、そのような意味では全体が共有していただければありがたいと思います。

○委員長（森 哲也君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 今及川委員からいただいたお話は、役場全体でのまちづくりの視点かと思います。決して横の連携が全くないということではなくて、それぞれの課題、情報共有というのはかなり頻りに会議体を設けないまでもフランクに課長同士、もっと下の職員同士でも、「これはこのようにできないか。」「これをやってほしい。」という意見は頻りに、表にはあまり出ませんが行っている部分はあります。ただ、それが全てかというのと本当にそればかりではないので、まだまだ大きく捉えていかなければならない部分がありますし、一つの具体例として若者対策という部分もありますので、もっともっと頻りに、活発に横の連携を図っ

てまちづくりを進めていかなければいけないというのは重々承知しているところではありますので、できればこのようなこともあったということを私のほうからも何かの折に話をさせていただいて、皆さんと一緒に課題解決に向けて進めていきたいと思えます。

○委員長（森 哲也君） ほかに質疑をお持ちの委員はいらっしゃいますか。

長谷川委員。

○委員（長谷川かおり君） キャッシュレス決済の関係ですが、機器を導入するときには町から補助金があったけれども、行っていく中で手数料がかかってしまうからその分物価高騰に対して商品に上乘せするようなことになってしまうけれどそこまでは、いろいろと苦勞をしている事業者の話を聞きました。しかし、実際に間口は広がっているというメリットがあります。

ほかの方からは、車で15分から20分走るところに大型量販店があるから、安いのでどうしてもそちらのほうへ行ってしまいます。町民が町内で消費をする、抱え込むということはできないけれど、何か策はないかという話もあったのです。キャッシュレス決済で手数料なども上がるけれど、地域クーポン券などを行っているところがあるので、そのようなことをしっかりと確立して町内で消費することでポイントも付いて町内できちんと買い物ができるというような仕組みづくりというのも今後必要かと思うのです。キャッシュレス決済をしたことによって手数料のこともあるので、事業者はなかなか難しいけれど、ほかのいろいろなところで実際に行っているの、町もある程度補助をするという仕組みづくりをしながら、そのようなところを研究しながらやっていくことで町民もメリットがあるし、事業所もメリットが出てくるのではないかなと思うので、町内の連携ということでお聞きします。

○委員長（森 哲也君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） キャッシュレス決済の関係でございます。昨年度キャッシュレス決済で20%分ポイント還元をさせていただきました。事業者向け説明会とか、逆に我々消費者側が使えるような説明会も何度か開催いたしました。そのほか、町内全体においては様々な場面においてスマホ教室のようなことでいろいろな団体が行い、我々もやらせていただきましたが、結果からいうと導入したことに効果があったと捉えております。先ほどの言葉の中にもありましたが間口が広がるメリットはあるという部分、昨年は時期もちょっと失敗したなというところは、できれば夏場にやりたかったのが本音でした。観光客がたくさん来るときにできれば外貨を稼ぎたいというのがございました。予算の獲得時期も含め、国の補正予算も含め予算がなかなか取れず時期を逸してしまったところがありますが、結果としてやっていただいたところには効果があったという結果が出ております。

終わった後も便利さを享受した消費者は、その後も使われているのです。ポイントだけが戻ってきただけではなくて、現金で小銭のおつりがくる面倒な部分がないので、一度使い始めると使われるようになってきているというのもありますし、そのような導入したお店は選ばれている状況があると捉えております。ですから、実際にやられたお店などではやる前とやった後ではお客様が増えて、その後も去年よりいいのだというお話も聞きました。

地域限定ポイントを白老町でやるかというのは別問題と個人的に思っています。公式的な考え方ではなくて私個人の考え方として、地域限定ポイントはあまりうまくいかないと思ってい

ます。やった方がいいという意見もあるかと思いますが。これはあくまで私個人の意見です。言葉が悪いのですが、私の考え方は、小さなパイの中だけでただポイントが行き来しているイメージしかなく、外からのお金が入ってこないといふようにしか捉えられない。その中で浮いた部分のポイントは、確かに一消費者で見たときに100円、200円とポイントがついていくかもしれませんが、相対的に見たときにお金が、全国区で使っている大手キャリアを含めたキャッシュレス決済であると、どこでも使える便利さがあるから選ばれるというところがあるのですが、地域限定のものを使ってしまうと、ある程度頭打ちしてしまったらそれ以上伸びない、非常に悩ましいところなのですが、私個人の考え方としてはやるだけの余力があるのであれば、逆にキャッシュレス決済導入のポイント還元事業を含めた事業をやったほうが事業者の方にとっても、消費者の方にとっても、たくさん見えられるであろう観光客の方にとっても便利はいいのではないかなと思っています。これは私個人の考え方ですので、地域限定のポイント還元型事業はうまくいくところもあればそうではない実情も、昨年キャッシュレス決済を導入するに当たって担当者が十勝管内の3つの町を回っています。実際に地域限定のお話もあったのですが、そちらのほうはあまり芳しくないというお話をされていたのを記憶しております。ただ、キャッシュレス決済をやると小さな商店でも今まで来たことのないようなお客様が来てくれたという嬉しい声も実際に聞いておりますので、そうではないというご意見があれば耳を傾けるつもりはありますが、私個人としては地域限定のポイント還元はあまり効果がないのではないかなと思っています。回答にはなってはおりませんが、そうであればキャッシュレス決済で多くの人が使えることのほうがメリットは大きいかなと思っています。そのような回答しかできません。

○委員長（森 哲也君） ほかに質疑をお持ちの方はいらっしゃいますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（森 哲也君） なければ、ここで質疑を終了したいと思います。

暫時休憩いたします。

休憩 午前11時46分

---

再開 午前11時47分

○委員長（森 哲也君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

それでは、物価高騰が町内産業に与える影響についてのまとめに入りますが、今回3回目の調査ということで、様々な意見がございました。たくさん意見が出ておりまして、町内産業に与える部分を中心にまとめを作っていくと考えているのですが、ここは強調したほうがいい、ここはもっと強く言うべきだななど意見をお持ちの委員がおりましたら、それを踏まえてまとめを正副委員長で作りたいと思っています。何か強調したい部分がございます方がおられましたら挙手の上発言をお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（森 哲也君） 正副委員長で原案をまとめますので、まとめた段階で意見等々いただければ随時盛り込んで作成していきたいと思っています。よろしく願いいたします。

暫時休憩いたします。

休憩 午前11時50分

---

再開 午前11時54分

○委員長（森 哲也君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

次に、2、議会報告会の内容についてに入ります。お手元に令和3年度の議会報告会の内容と令和4年度の議会報告会の内容があります。令和5年度につきましては、令和5年度が最終年度となりますので、4年間のまとめをつくるのと令和4年度の報告会以降の動き、主に道外視察などの内容で作成しようと考えております。まず、内容に対して意見のある委員の方がおられましたら挙手の上発言をお願いいたします。

西田委員。

○委員長（西田祐子君） 昨年と一昨年の2年分なのですが、最初に委員の写真が写っていますが、この写真はよくないと思うのです。撮るのであればきちんと全員の顔が見える写真がいいと思うのです。これだと及川委員が腕組みをしています。そこだけが目立ってほかの委員さんたちの顔が全然見えない。せめて委員会の写真を撮るのであればみんなで集合写真を撮るなど、そうしなければ名前は分かるのだけれど、委員の顔が分からないというのが気になったので発言させていただきました。

○委員長（森 哲也君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前11時59分

---

再開 午後0時08分

○委員長（森 哲也君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

写真については、皆さんが写っている写真を使うことで進めてまいりたいと思います。

ほかに4年間のまとめと道外視察ということを私から発言いたしました。その内容をまとめていくという作り方でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（森 哲也君） ありがとうございます。

動画撮影のときに例年委員長と副委員長で発信するということがあったのですが、今年の発信の仕方は例年どおりでいいものなのか、そこもお諮りしたいと思っていたのですが。

貳又委員。

○委員（貳又聖規君） 例年通り正副委員長でよろしいのではないのでしょうか。我々がページごとに区切ってやるという方法ですか。どのような方法があるのでしょうか。

○委員長（森 哲也君） 小山内事務局主幹。

○主幹（小山内 恵君） 以前、広報広聴常任委員会で委員長から、正副委員長だけだと出番のない委員がいるので、選挙もありますので平等に各委員に紹介してもらうなど委員会で工夫して実施してくださいというお話をいただいています。例えば議会運営委員会、各常任委員会の正副委員長が紹介するとなると、そこで議会の活動を紹介しない委員が出てしまい、いろいろ活動されているのにと。そこは各委員会でカバーするとか、いろいろ考えてみてくださいと

いうお話です。ただ、今の皆さんの顔が揃って出る、動画の中に写真を多く使う、写真で出るようにするというのは可能かと思いますが、紹介をするときに出不来委員がいるよりは皆さん登場する機会があったほうがいいのではないかというお話でした。

前田議員から、「今までのでもいいけれど、選挙もあるし皆顔を出す機会が平等ではないというのは気になるところがあるから、それでいいのか。やはり皆さん紹介する機会があったほうがいいねというのか。自分はいいけれど事務局で配慮して。」ということは言われています。

○委員長（森 哲也君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前 11時59分

---

再開 午後 0時08分

○委員長（森 哲也君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

産業厚生常任委員会の報告は、例年どおり正副委員長で行い、活動報告の中で全委員を紹介することといたします。

ほかに議会報告会の内容について質疑等のある方はいらっしゃいますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（森 哲也君） 3、その他に入りたいと思います。何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

---

#### ◎閉会の宣告

○委員長（森 哲也君） それでは本日の産業厚生常任委員会を閉会いたします。

（午後 0時09分）